

コニカミノルタ

magicolorが実現する Macビジネス快適術

【第一回】デザイナー 米谷テツヤ氏

『Mac Fan』創刊以来、本誌アートディレクターを務め、今では雑誌・書籍など年間100冊以上のデザインを手がける米谷テツヤ氏。そのすべてを、米谷氏はMacによるDTPで行っている。そんなDTPのプロフェッショナルの現場で、コニカミノルタのレーザープリンタ「magicolor 7450」はどうか活かされているのだろうか？



文●矢澤哲 写真●黒田彰

プロに必要な プリンタの条件とは

米谷テツヤ氏は、雑誌やムック、書籍など、紙媒体デザインのプロフェッショナル。米谷氏ほどの経験豊富なデザイナーであれば、Macの画面だけでも、印刷の仕上がりは想像できるはずだ。ならば、いちいちプリンタで印刷する必要はないようにも思えるが、返ってきた答えは意外に慎重なものだった。「一度は必ずプリントアウトするようにしています。プリントアウトしなければわからないところはあります」

米谷氏によれば、プリンタで印刷して確認することを怠らないのが紙媒体を扱うプロのデザイナー。そんな米谷氏が求めるレーザープリンタとはどんなものだろうか。

「実際の印刷物に限りなく近いプリントを得られるのが一番です。でも、すべてのインク用紙をシミュレートできるプリンタはまずないでしょう。だから、シミュレートできるインクの数の多さよりも、いろんな色を安定して出力できるプリンタがありがたいですね」つまり、使用するインクによる色のバランスさえ把握できていれば、用紙による色の違いは頭の中でシミュレートできる。だから、実際の刷り上がりに近いということはもちろん、色のバランスがきちんと取れているプリンタがいいということなのだ。

デザイナーとしての マジカラの評価

では、米谷氏は「マジカラー (magicolor) 7450」をどう評価しているのだろうか。

「旧式のレーザープリンタでは再現が難しかった薄いハーフトーンが、マジカラーの場合、きちんと再現できるのがありがたいです。写真を使った誌面も比較的印刷に忠実で、プリントは、印刷に近い仕上がりでですね」

米谷氏は普段Mac OS Xを使って作業しているが、マジカラー7450にはMac OS 9のドライバが搭載されているところも重要しているという。

「今では95%がMac OS Xベースの仕事ですが、やはり以前のシリーズ物の書籍などで、一部Mac OS 9で作ったクォークファイルを使う仕事も残ってますから」

米谷氏は、Mac OS 9ベースの仕事のために、当時購入した旧式プリンタも残している。だが、古い物だけにプリント速度は非常に遅く、色味も安定しない。一方、マジカラー7450ならば、最新の高速エンジンでMac OS 9の仕事でも活かせるわけだ。

もう一つ、マジカラー7450で気に入っている点として米谷氏は、長尺紙など多彩なメディアに対応していることを挙げている。「書籍の場合、本そのものは大きくないので

Profile

米谷テツヤ

デザイナー。株式会社バス代表取締役。書籍の装丁や雑誌誌面のデザインなど、さまざまなデザインを手がけている。写真は米谷氏が手がけた雑誌や書籍の一部。本誌『Mac Fan』のアートディレクターも務める。



A4プリンタでもプリントできるくらいですが、カバーのデザインは、A3用紙でも小さすぎます。必ず本の形にして確認するので、書籍のカバーを広げると、実は非常に長いことに気づく。これまでは、A3プリントを切り貼りしてデザインチェックしていたが、マジカラー7450の長尺プリントを使えば、切り貼りする手間が省けるのだ。書籍のデザインを数多く手がける米谷氏ならではの着眼点といえる。

このように米谷氏はマジカラー7450を高く評価する。最後にマジカラーをお勧めしたい人たちについて聞いてみた。

「デザイナーはもちろん、印刷物向けのグラフィックを手がけるカメラマンやイラストレーターにもいいんじゃないでしょうか。よくインクジェットプリンタで印刷している方がいますが、印刷のシミュレートを行う場合やはりレーザープリンタのほうが信頼度は高いですよ。マジカラーはインクシミュレーションもでき、発色も自然なので、実際の印刷の仕上がりを想定できます」

プロの仕事を支えてくれるマジカラーは、幅広いデザインを手がける米谷氏の良きパートナーになってくれそうだ。

米谷氏も
納得!

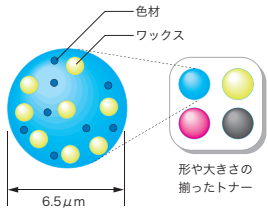
プロの仕事に必要な、
マジカララーの機能

的確に印刷の仕上がりを
判断したい!

マジカララーの採用で 美しいプリント

マジカララーに採用されたエンジン「エンペロン (EMPERON)」はハードウェアとソフトウェアの性能を最適化してプリントするため、非常にパワフル。それは印刷のスピードに貢献するだけでなく、大量の演算を即座に処理できるため、マルチビット画像処理技術による、より高精度でなめらかな画質も実現している。マルチビット画像処理技術とはコニカミノルタ独自の画像処理技術で、1ドットをさらに4ビットに細分化するもの。粒子が小さく均一なデジタルトナーの採用と相まって、写真はより滑らかで美しく、文字はよりクッキリと読みやすく印刷できるようになった。

また、デジタルトナーは紫外線の影響による劣化が少なく、的確な色が再現できる。その上低い温度で定着し、しかもオイルレス定着が行えるので、厚紙でも薄紙でもシワやカールが少なく、ボールペンで書き込める仕上がりを実現した。さらに印刷の仕上がりが常に一定になるよう、ベルト上にあるトナーを検知して常に最適な濃度に調整するeAIDC技術が採用されている。これにより常に安定した濃度のプリントが得られるので、印刷の仕上がりの判断に狂いが生じない。



細かく粒の揃ったデジタルトナー (重合法トナー) の採用によって、微細な線や小さな文字が非常にきれいに出力できる。



高速度、高品質、高性能を実現するプリントテクノロジー「エンペロン」。

実際の印刷物に近い プリントが欲しい!

インキシミュレーションで 印刷イメージを掴める

DTPにおいて印刷の仕上がりを予測し調整することはもともと重要な作業の1つ。発色に多少の差異が生じるのは仕方ないとしても、色のバランスが異なってしまうのは仕上がりを予測するのは難しくなる。

マジカララーに採用されているコニカミノルタ独自のデジタルトナーは色再現領域が広く、日本のオフセット印刷標準である「JAPAN COLOR 2001」に近い発色をするので、実印刷物にピッタリ合った的確な色再現が行える。特に色の薄い部分、中間色のディテールが秀逸で、正確に表現できる。また、それをより正確にするシミュレーション出力機能も備えている。これはTOYO (東洋インキ) やDIC (大日本インキ化学工業) といったインクを使用した場合の色がシミュレーションできる機能。これらはプリンタドライバの設定で簡単に実行できるので、印刷イメージを手軽に掴める。

さらにCMYKから印刷を行う場合、「テキスト」と「グラフィックス」オブジェクトに対して黒 (K版) の再現をBKトナー単色で行う「墨版保持」機能も搭載している。このクラスのレーザープリンタで搭載しているのは珍しい。

このように、マジカララーの仕上がりは印刷に限りなく近い状態で仕上がるため、精度の高いシミュレーションが行えるわけだ。



これまで使用していたプリンタでは薄い色がうまく出なかったが(左側の用紙)、マジカララー 7450 でプリントしたものは実際の印刷物に近い色が出ている。

さまざまな環境と 用紙でプリントしたい!

Mac OS 9も対応、 長尺紙や厚紙も扱える

マジカララーには、異なる環境でも簡単に使える機能が搭載されている。その1つが、Mac OS XおよびMac OS 9のドライバが両方搭載されていること。まだまだMac OS 9環境で作業するケースがあるDTPのユーザーにとって、正式にMac OS 9をサポートしているのは心強い限りだ。さらにオプションの40GBのハードディスクユニットを追加することで、市販のポストスクリプトCIDフォントなどをダウンロードすることができる。

Mac OS Xならば、ネットワーク上の機器を自動検出して接続できる「ボンジュール (Bonjour)」にも対応している。プリンタドライバをインストールしてネットワーク接続すれば、すぐにプリンタ一覧にマジカララーが表示されるので、設定は非常に簡単だ。

また、用紙もさまざまなものを使用できる。長尺紙、厚紙から封筒、ラベル紙といった異なる紙を扱えるのだ。手差しトレイもしくはオプションの長尺用紙対応トレイから、1.2メートルまでの長尺紙を最高10枚まで連続給紙できるのも利点の1つだ。



フォントはポストスクリプトとPCLを搭載。ハードディスクを増設することで、CIDフォントなどをダウンロード可能だ。



規格の異なる用紙にも、柔軟に対応してくれる。また、256g/m²までの厚紙の自動両面印刷ができる。

デザイン、DTPに最適なA3ワイド対応プリンタ magicolor 7450

マジカララーシリーズの最上位モデル。4連タンデム方式のA3ワイドに対応したレーザープリンタ。印刷速度はカラー/モノクロともに毎分25枚(A4)と高速で、Mac OS 9.1以降およびMac OS X 10.2、10.3、10.4に対応。多彩な用紙サイズに対応、USBよりカメラダイレクトプリントもできる。オプションの増設給紙ユニットが本体下に重ねられるなど、フル装備にしても設置面積が少なくコンパクトになるよう設計されている。



■ 32万8000円
■ 9600dpi相当×600dpi
■ 648(W)×606(D)×477(H)mm 約50.5kg(消耗品含まず) ■ A3ワイド(311.2~457.2mm)~ハガキ ■ 1000/100/10BASE-Tイーサネット、USB2.0、IEEE1284準拠パラレルインターフェイス ■ CPU: PowerPC G4 733MHz / メモリ: 256MB (最大1024MB) / ハードディスク: 40GB (オプション)

コンパクトで高性能な PS対応A4カラープリンタ magicolor 2550 ■ 13万8000円



高速処理に優れた
PS対応A4 (タンデム)
カラープリンタ

magicolor
5570 ■ 24万8000円